

なでしこ通信 第 29 号

- ◆教育をテーマに「わいわいトーク」を開催
- ◆0歳児からの保育園通いの功罪は???
- ◆連載 変貌するフェミニズム科学
(1) 男はできそこない?(上)
めざす会幹事 水上紘一
- ◆図書のご紹介
渡部昇一著「なでしこ日本史」

健全な男女共同参画をめざす会

平成 21 年 7 月 1 日

なでしこ通信 第 29 号

◆教育をテーマに「わいわいトーク」を開催

松山市に「みんなの松山 わいわいトーク」と称する催しがあります。これは、行政が市民の理解と協力のもとで「まちづくり」を進めることを目標として行われるもので、ほぼ 10 人以上の市民のグループが「わいわいトーク」の開催を申し込むと、市の職員が会場に出向いて、市政の取り組みなどについて説明し、意見交換をするものです。

このたび、「めざす会」は男女共同参画との関連において教育を取り上げることとし、86 個挙げられている「わいわいトーク」のテーマから「今、子どもたちは——これからの学校教育」を選んで申し込みをしました。その結果、下記の要領で開催することになりました。教育委員会からお二人の方がお越し下さる予定です。ご予約の上、ぜひ、ご参加ください。

記

開催日時： 7 月 23 日 (木) 午後 6:00—8:00

会 場： 椿神社 会館 2 階応接室

テ マ： 『今、子どもたちは——これからの学校教育』

男女共同参画に関して、性教育や混合名簿の問題

予 約： めざす会事務局 090-8971-7721

◆0歳児からの保育園通いの功罪は???

産経新聞 6月12日に上のようなテーマの記事が載っていました。昨年度の保育白書によれば、0歳児のうち保育園に通うのは7.8%。保育園の待機児童のうち、約8割を0～2歳児が占めています。これは出産後も仕事を続けたいと願う女性の増加を示していると言っているでしょう。

産経紙のアンケートによると、0歳児を保育園に預けて働くことに「賛成」と回答した人は全体の51%、さらに子供を保育園など多様な人の手を借りて育てる方がよい、と思っている人は65%に達しています。これを支持する意見は次のようなものです。

○「保育園のおかげで私（注～母親）の姿が見えなくても泣いたりせず、同年代の子供より少したくましく見える。どこへ預けようと親がしっかり愛情を持って育てれば問題ない」会社員(29)

○「子育てで心配なことがあれば保育園の先生に相談できるし、同じ環境の保護者と話す機会もできて精神的にも良いと思う」会社員(43)

○「私自身0歳から保育園に入れられていたが、寂しい思いをしたと感じたことはない。特別の事ではないと思う」会社員(24)

また、恵泉女学園大学・大日向雅美教授は
「今後は大幅に労働力が減ることが予想され、男女が共に働き、社会保障の基盤を盤石にする必要がある。子育てとバランスよく働ける社会の仕組みづくりを急ぐべきだ」
「0歳児であっても、適切な保育時間と保育の質を保てば、預けて働くことを躊躇する必要はない」とコメントしています。

しかし、同時にこのような意見もあります。

○「子供を育てることも立派な仕事。親にしかできない仕事を放棄してほかの仕事をするのは考えられない」団体職員(43)

○「子供を預けるだけでなく育てる喜びも預けてしまう親がいる。平気で『うちは保育園に育ててもらったの』という親がおり、子育てについてもっと考えるべきだ」自営業(47)

○「2歳の娘の成長過程が見られて幸せに思う。この時期に保育園に預けてしまうのはもったいない」主婦(34)

日本子守歌協会の西館好子理事長はこういいます。

「保育園に預けず、母親が手元に置いて育ててほしい。授乳時に赤ちゃんをしっかり抱いて目を合わせるだけでもいい。そうやって子供は信頼の情けをからだで会得していく。

そんな大切な時期に仕事や自己実現など母親個人の自我が優先され、子育てという大仕事が置き去りになるのは本末転倒だ」

「愛情は、自分が与えられたから、人に与えることができる。おっぱいをあげて、添い寝して、子守歌を歌い母のぬくもりを体で感じる。そういうことを忘れた社会は殺伐とした空気に覆われてしまう。今こそ女性自身が子育ての重要性を見直すべきでは」

待ったなしで進む少子高齢化。女性の生き方や家族のあり方とも無関係ではありません。また、子育ての成否は作物のように1年やそこらでわかるわけではありません。時代と共に変化してしかるべきものとはいえ、どれほど月日が流れようが変わってはならない基本もある—— それをしっかりと見極めねばならないでしょう。

連載 変貌するフェミニズム科学

—— (1) 男はできそこない? (上) ——

■お粗末だったジェンダーフリー (男女同じ) の科学的根拠

思想や主義が科学を利用するのか、それとも科学が思想を導くのかは別にして、フェミニズムは科学の衣装をまとっている。

今では誰も信じないことだが、性の自認は育て方によって決まる (男の子として育てれば男に、女の子として育てれば女になる) というジェンダーフリーの教義がある。その科学的根拠になったのがマネーの人体実験である。マネーはレイマーという幼い男児に性転換手術を施し (1966年)、女兒として育てることに成功したと発表した (1972年)。しかし、こんな非常識が通用するはずはなく、その実験は失敗したことが後に判明し、しかもレイマーの自殺という悲惨な結果を伴った。その間の事情はコラピント著「ブレンダと呼ばれた少年」に詳しい。

■昨今の宣伝: 「最新科学が女の優越を支持する」

フェミニズムはすでにマネーの実験という粗末で破れた科学衣装を脱ぎ捨てている。最近まとう衣装は流行の最先端のきらびやかなものであり、しかも科学的事実の叙述にほころびが目立たない。問題は解釈にあり、導く結論にある。昨今は、男女は同じだというような愚かなことは言わない。むしろ男女の違いを認めた上で、女の優越を唱えるのである。皆さんはお気づきだろうか。最新の生命科学や遺伝子の研究は女尊男卑 (女優男劣) を支持すると宣伝する本が出版され、テレビも宣伝番組を流した。

どんな宣伝か、紹介して、美装を剥ぎ取ることにする。科学にかかわることなので少々むずかしいかもしれないが、通読のうえ警戒していただきたい。

それでは最初に、ベストセラーの福岡伸一著「できそこないの男たち」（光文社新書）を取り上げる。ただし、簡単には説明できないので、今回はその内容の要点を紹介する。

■予備知識 —— 旧約聖書の記述：「イブはアダムから造られた」

ウーマン・リブやフェミニズム運動は、男尊女卑の伝統に対する反動として欧米社会で生まれたと聞かれることがある。その伝統は、神がアダムの肋骨を取り、助け手としてイブを創ったという旧約聖書創世記の記述に由来するという。もしそれが事実なら、日本人の我々にとって、フェミニストがその記述を目の敵にするのは分らないことはない。

ご存知のように、アダムとイブはエデンの園から追放される。いわゆる楽園追放である。その際、アダムとイブは他にも神の罰を受ける。イブが受けた罰は、「子を産むときの苦しみ」や「夫の支配を受けること」などである。フェミニストが許せないのは、むしろこちらの方ではないか。

■「アダムがイブから創られた」根拠の発見を目指したページ

福岡氏の著書の 24-25 ページに、おおむね次のように書かれている。「デイビッド・ペイジが目指したもの。それは、とりもなおさず旧約聖書の記述を改訂する試みだった。あるいはボーヴォワールの有名な言葉『人は女に生まれるのではない、女になるのだ』を敢えて無化する企てだった。ペイジは言うのだ。イブはアダムの肋骨から造りだされたのではない。アダムこそがイブから創りだされたのだ。そしてボーヴォワールの言葉は、男の方にこそふさわしい。人は男に生まれるのではない。男になるのだ。でも、どうやって？それがペイジの最も知りたい問いだった。」

「アダムがイブから創られた」という譬え(たとえ)は科学者にとっても分かりやすく面白くであろうが、上の文章はフェミニズムに染まっている。ボーヴォワールはフェミニストとして、また「ジェンダー」概念の発案者として有名である。

■性決定遺伝子 SRY の発見——功名争いに敗れたページ

ペイジは 1988 年に、男を男たらしめる遺伝子を発見したと発表した。しかし気の毒なことに、ペイジは少し見当違いをしてしまった。真の性決定遺伝子 SRY は、その 2 年後に別人によって発見された。その発見からまだ 20 年ほどしか経っていない。

■男と女の分化は受精から 6 週間後

人の誕生と男女の分化の過程についての福岡氏の説明を筆者なりに要約してみよう。

受精から 6 週間後には、受精卵は 1cm ほどの勾玉(まがたま)形に成長する。異様に大きい頭の部分に目や耳に変わると思われる小さい凹凸が現れ、また他に、諸器官に発展するきわめて単純な原初構造が形成されている。

7週目に入ると、Y染色体を持つ男では、人体の諸器官の形成が進行するほか、性決定遺伝子 **SRY** が働き始めて原初構造の男に不要な部分を消滅させたり、改変していく。**SRY** 遺伝子を持たない女では、原初構造はそのまま発展していく。

性決定遺伝子とは、実は男性決定遺伝子なのである。

■「人の基本は女である」？

上記の人の誕生の過程について筆者は、卵子が受精してからしばらくの間は人の原初構造が形成され、ある時期を境に男女に分化していくのだと理解する。

ところが、そうではないのだと福岡氏は言う。女は何も無理をしていない。原初構造をそのまま発展させている。それゆえ、女の身体にはすべてが備わっている。これに対して、男は原初構造の一部を消滅・改変して出来上がる。つまり、男は女を作り変えてできたものであり、また、その作り変えは急場しのぎで不細工である。結論として、人の基本は女であり、男は女から作られた「できそこない」である。

しかし、これは生物学界の定説であろうか？

■「女は男より高等である」？

福岡氏は次のようにも述べる。「女性は尿の排泄のための管と生殖のための管が明確に分かれているが、男性はそれがいっしょくたなので、女性の方が分化の程度が進んでいる、つまりより高等であるとのフェミニズム仮説はあながち間違っていない」。さらに少し間を置いて、「アダムがイブを作ったのではない。イブがアダムを作り出したのである」と踏み込んでいる。これは「あながち間違っていない」の程度を超えているのではないか。

これも生物学界の常識であろうか？

(次号へ続く) (めざす会幹事 水上紘一)

◆図書のご紹介

渡部昇一先生の新刊

『女性は太陽であり続けてきた！なでしこ日本史』, 育鵬社 1300円＋税

フリダン・スミス・カレッジというアメリカ名門女子大学の卒業生だが、彼女の始めたウーマン・リブは過激であった。筑波大学で開催した国際シンポジウムに彼女が招かれた。この時、私はウーマン・リブの理念が日本では通用しないように思っていたのでフリダン女史に直接質問した。

「あなたの主張は、キリスト教・ユダヤ教を信ずれば、宗教的にはバイブルに反しているし、進化論を信ずれば、生物学的に人類50万年の歴史に反している。これをどう思われ

るか」

ユダヤ教なら男尊女卑だ。進化論で言うなら、男が妊娠・授乳できない以上、男女の別は疑うべくもない。この私の意地悪(?)な質問に対するフリダン女史の答えは見事でもあり、意外でもあった。

「ウーマン・リブ運動は、確かにはじめは男性を敵とする運動でした。しかしそれは第一段階のことでした。今は男と女は協同してやってゆくという第二段階です。」

その時、私が思ったのは、ウーマン・リブが達したという第二段階に日本は神代から到達していたのではないか、ということである。

キリスト教でもイスラム教でも、ユダヤ人の聖典である旧約聖書を聖典としている。ここには神様が最初に造られたのはアダムという男であり、そのアダムを慰めるためにイブをアダムの肋骨から造ったと書いてある。しかし、そのイブはアダムにすすめて禁断のりんごを食べさせて楽園追放の原因をつくったことになっている。

一神教の根本聖典を素直に解釈すれば、女は男に従属する者であり、男の墮落のもとになる者である。そう考えると、この聖典に最も忠実に従っているのは、一神教の中でも、イスラムなのではないかとも思われてくる。

これに反して、日本では最初から男女は支配関係ではなく相補関係であった。日本の国造り神話は男女共同作業だ。しいて言えば、男が最初に女を誘うという順序があるだけである。男と女の関係は一方的でないということが神話の時代から日本人の意識、あるいは潜在意識の中にある。

■□□事務局からのお知らせ■□□

■先回お送りしました「平成 20 年度収支決算報告書」に関しまして、収入:523,259 円 支出:442,155 円 残高:81,104 円であったことをご確認申し上げます。

■第 8 回講演会を 11 月 23 日(月・勤労感謝の日)に開催決定!講師は作家、故遠藤周作氏夫人、順子先生です。

■学習会を毎週開催しております。日時や会場はお問い合わせ下さい。

■会費の切れる会員の方には振替用紙を同封しております。現在の会員数は 674 名。1,000 名をめざしております。この機会にご家族やご友人にもご入会いただけますようお願い致します。新しい方のお名前は通信欄にお書き下さい。

健全な男女共同参画社会をめざす会

事務局 青井美智子 〒790-0931 松山市西石井 1-3-30

電話 090-8971-7721 FAX 089-964-3903 メール t64r59@bma.biglobe.ne.jp